

ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp



29



くにか動物病院長
(黒部市新牧野)

國香 正寿

人間の医療と同じように動物の医療も日進月歩で進歩しています。それに伴い動物も長生きするようになりました。お互い一緒に過ごせる時間が増えることは望ましいのですが、高齢化により猫の運動器疾患は増加しています。その一つが変形性関節症です。変形性関節症の原因はいろいろありますが、高齢の猫には加齢に伴う関節の変化や、肥満による体重の負荷が多いとされています。驚くことに12歳以上の猫の90%以上が変形性関節症であるという報告もあり、特にスコティッシュフォールドに関しては他の猫種の1・4倍も多く罹患していると言わ

猫の変形性関節症



変形性関節症と診断した猫の肘のレントゲン。関節の異常により余分な骨ができた(矢印)

体重管理で負担減らす

れています。

猫は犬に比べて痛みを表に出さないため、飼い主はもちろん私たち獣医師も変形性関節症の存在に気付かないことが多くあります。痛みのサインとしては「ジャンプをしたがらない」「爪とぎをしない」「食遊ばない」「爪とぎをしない」「食欲が落ちる」「怒りやすくなる」

といったものがあります。実際に「年をとって動きが悪くなった」という主訴で変形性関節症と診断した猫を治療すると、「見違えるように活発になった」という声をよく聞きます。

変形性関節症に一度なってしまうと、元に戻すことは不可能です。そのため早期診断が重要であり、進行を少しでも緩やかにして生活

があつて滑りにくい床材を敷いたりするとよいでしょう。

痛みの管理は鎮痛剤での治療が主なものとなります。猫の投薬は犬に比べて難しく、錠剤ではなく液体の方が投与しやすい場合もあります。どうしても投薬が難しい場合は注射もできるので、その猫に合った治療が選べます。他にも慢性痛の緩和を目的として光線温

の質を改善・維持することが治療の要となります。

治療としては体重の管理、環境の修正、痛みの管理があります。この中で最も大切なのは体重の管理です。適度な運動も必要ですが、関節への負担を減らすため、猫が上り下りするところの段差を小さくしたり、猫が飛び降りるようなところにはクッション性

熱療法、超音波療法などや、関節保護のサプリメントを使うことがあります。

変形性関節症の進行を止めることはできず、根治は期待できません。しかし、適切な管理を行えば生活の質を保つことは可能です。日頃からよく観察し、適度なスキンシップを図り、少しでも異常を感じたら近くの獣医師に相談してください。